

未来は、
たまねぎの中にある。



日本一のたまねぎ産地が挑む地域ブランドづくり。株式会社グリーンズ北見（北海道・北見市）

北見ブランドのたまねぎを食卓へ。「北見は日本一のたまねぎ産地です。でも、一般消費者の方々にはまだまだその事実が知られていないのが現状なんです」そう語るのは、地域のJAや北見市などがひとつになって設立されたグリーンズ北見の丸山さん。日本が誇る農業先進地が抱えるそんな悩みを解決するために始まったのが、「北見たまねぎのブランド化」への挑戦です。北見地域のたまねぎを使用したオリジナルコロッケ「たまコロ」を新しく開発して販売。さらに、フリーズドライ技術を導入して、定番のオニオンスープをプレミアム商品へ。安心して安全な「北見たまねぎ」を自分たちで加工し商品化することで、地域の魅力を一般消費者のもとへ直接届けていくプロジェクトにチャレンジしています。

日本一であり続けるための挑戦。そもそも、北見地域がたまねぎ生産量日本一になった理由は、たまねぎの生育に適した環境のおかげだけではありません。東京や札幌などの大消費地から遠く輸送に課題を抱えていたこの地域。そんな距離のハンデを乗り越えられたのは、決して品質に妥協しない農家のたゆまぬ努力と品種改良への継続的な挑戦が大きかった、とJAきたみらいの坂下さんは語ります。「うちとはとにかく品種が豊富です。生育や収穫時期の異なる品種を組み合わせ、全国のニーズに応えられる工夫を続けています」さらに生産者同士の積極的な勉強会や、最先端の技術や農機の導入。この地域の人々に脈々と受け継がれる、常に農業の開拓者でありたいという姿勢が「北見たまねぎのブランド化」にもつながっています。

農業の先頭を、走り続けよう。「儲かる儲からないではなく地域のためになるか。それがいちばん大切です」熱い眼差しで語る丸山さん。地域の生産農家と共に歩むという使命のもとに誕生したグリーンズ北見のこの活動には、地域から大きな期待が寄せられています。日本の食料供給基地、北海道。その誇りを胸に地域全員のたゆまぬ努力で掴み取ったたまねぎ生産日本一。しかしそこに甘んじず、率先して次のステージへ挑戦することで、日本の農業のみらいをこれからも切り拓いていきます。



一般社団法人
農林水産業みらい基金

未来は、いつだって、現場から生まれる。私たち農林水産業みらい基金は、JA（農業協同組合）・JF（漁業協同組合）・JForest（森林組合）グループの一員である農林中央金庫によって設立されました。

詳しくは
<http://www.miraikikin.org/>

